

## 湿原面積の変遷図

国土交通省によれば、湿原面積は戦後50年間で約2割減少。湿原域内のハンノキ林面積は戦後、1977年までの30年間で4割増、その後1996年までの20年間で2.4倍と加速的に増加。久著呂川、雪裡川など河川の湿原流入部を中心に拡大。



## 5つの対象地域



植生・地下水動態を中心に詳細な調査 (広里地域)



NPO法人主催による市民参加の森づくり (達古武地域)



地元の標茶高校における水質浄化実験 (塘路・茅沼地域)

## 自然再生釧路方式 (釧路湿原における自然再生事業の考え方・進め方)

### 釧路地域の現状と課題

- ・農地・宅地開発等により、戦後50年間で湿原が約2割消失、加えて、河川の直線化、森林伐採等に伴う土砂・栄養塩類の流入により、ハンノキ林拡大など湿原の質が近年急速に変化
- ・野生動植物の生息環境、湿原景観の悪化
- ・湿原・河川の変化に伴う保水・浄化機能や洪水調節機能の低下
- ・湿原利用による湿原環境への負荷増大

釧路湿原の河川環境保全に関する検討委員会による提言 (2001.3月)

### 3つの究極目標

自然環境の  
保全・再生

農地・農業  
等との両立

地域づくり  
への貢献

- ・自然が自らの力で回復していくことを手助けする
- ・自然を壊すことがないようにていねいな手順・方法が必要
- ・30年、50年がかりの息の長い地域に根ざした取り組み

### 2つの大方針

流域全体  
25万haが対象

湿原のバッファゾーン  
5地域から事業開始

### 8つのポイント

調査・事業の進め方

目標の設定  
科学的調査・計画  
モニタリング・評価、順応的管理

事業推進の仕組み

関係省庁・NPO等との連携、市民参加  
情報の公開と共有  
環境教育・普及啓発

地域・生活とのかかわり

生活・なりわいの維持向上  
地域の魅力・活力の向上

## パイロット事業の実施

広里地域、達古武地域、塘路・茅沼地域、久著呂・幌呂地域、温根内・北斗地域